

政務活動費 活動実績報告書

件名	住宅耐震化対策の取り組み
使途	① 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費
金額	87,730円
期日	令和6年6月24日（月）～令和6年6月25日（火）
場所	高知県黒潮町
目的	住宅耐震化対策の取り組み（犠牲者ゼロをめざす地震・津波対策）
報告者	八女市議会議員 原田英雄
参加者	原田英雄、古賀邦彦
概要	○視察のきっかけ NHK テレビ放送のクローズアップ現代にて、徹底した耐震化の取り組みがOAされ全国的に優良事例として各自治体から評価されており、本市の対策の参考に資するべく、これまで防災について一般質問を行なっていた古賀議員とともに現地調査に伺った。 ○6月24日（月）14:00～17:00 黒潮町役場にて、座学 1 応対頂いた黒潮町の方々（情報防災課 村越課長、国見主幹、宮地） 2 黒潮町の防災対策全般について 東日本大震災から約1年後（2012年3月31日）に発表された南海トラフ地震予測により黒潮町に突き付けられたこと＝最大震度7、津波34.4m、津波到達時間2分 黒潮町の選択＝犠牲者ゼロをめざす。 町長のリーダーシップの基で、徹底した対策を開始した。 ①防災地域担当制：全職員が通常業務に加え、防災業務を兼務（分団毎に担当） ワークショップや避難道の点検等住民とともに職員が取り組む。 ②避難空間の整備 避難路の整備や避難困難区域解消のためのタワー設置。（国費＋県費） ③戸別津波避難カルテ ワークショップにより個別の避難計画を策定し、訓練実施。 ④地区防災計画 住民自ら作成する地域特性を反映した手作りの防災計画、毎年シンポジウムを開催。

⑤木造住宅耐震化等の促進

津波避難のためには自宅から外へ安全に避難することが重要との考えで耐震診断、設計、改修について10割の補助制度を設け促進している。定額上限125万円の改修補助事業は年間100棟前後の実績あり。工務店への低コスト耐震工法などの研修も実施。

⑥避難所運営マニュアル作成

避難所開設には役場職員は関わらず、住民自らが開設する。職員は災害対応業務に従事。

⑦防災教育プログラム

小中学校において年間10時間の防災教育を実施。子供達が大人になると災害に強い地域文化となる。

⑧告知放送システム

光ファイバーを使った告知放送端末を全世帯に配布。併せて屋外放送（防災行政無線）による情報発信システム。防災行政無線は部品がなくなりつつあるが、可能な限り使用。

⑨町備蓄計画

町民1日分にあたる食糧、水の備蓄のほか、町民自ら3日分の個人備蓄を推進。消費期限がまとめて切れないようローリングストックにより備蓄。3セクによりアレルギー対応の缶詰工場を設置し、町内備蓄のほか全国へ備蓄品として出荷。

⑩防災訓練の開催

町全体、地区毎、学校毎に様々な状況を想定した防災訓練実施

3 木造住宅耐震化の取り組みについて

①経緯

町長のリーダーシップの基に「犠牲者ゼロ」を目指した中から制度化した。

②推進体制

説明会30回以上開催するとともに、分団毎の担当職員が地元に入り防災対策の話し合いや防災計画普及等に取り組む中で利用者が増加。

③空き家活用

空き家を町が借上げ、耐震補強した後に移住者へ月2万円ほどの安価な家賃で貸与している。現在38件中32件が入居済み、残6件も5件が内定している。

④実績

町内住宅7,288戸のうち旧耐震4,148戸のうち1,169戸が耐震補強済み。耐震化率59.1%。
診断済み1,906戸、設計済み1,311戸、改修済み1,169戸

○6月25日（火）9：00～11：30 黒潮町公用車にて現地視察

①津波碑文

安政元年（1854年）の津波被害を忘れないよう石碑設置されていた。

②津波避難タワー

避難困難区域に全額国県費負担により整備。見学したタワーは高さ25mで230人が収容可能とのこと。総工費590,000千円

③耐震補強工事中の家屋

1棟目：昭和時代の土壁づくりの平屋であるが、防錆のためにステンレスで作成された金具と国土交通大臣認定品のコンパネで壁を補強し耐震化されていた。

2棟目：2階の内壁の表を撤去し、1棟目同様の金具とコンパネのみで耐震工事中であったが、工期も短く安価で済む（補助上限の125万円以下）とのことで家主さんも喜んであった。

	④耐震性のないブロック塀撤去工事 前述の家屋の隣では、ブロック塀の撤去工事が行なわれていたが、これも全額町補助で施工しているとのこと。
所感	「犠牲者ゼロをめざす」と掲げられた黒潮町の地震津波対策は、想像以上のものであった。視察した私も同僚の古賀議員もその取り組みの徹底ぶりに圧倒された。同町の命を守る姿勢は、南海トラフ地震の想定発表を受けた危機感からスタートしたものであるが、改めて「災害に備える。住民の命を守る。」ことの重要性を再認識させられた。 また、木造住宅の耐震化については、業界と行政が協力しながら実績を上げている素晴らしい取り組みであり、現地で詳しくレクチャーいただくとともに同工法の参考冊子まで提供頂き今後に役立てたい。 併せて、耐震補強と空き家対策を進めることにより移住者も増加し、大きな効果を上げている。元々美しい砂浜がある同町は週末には関西から多くのサーファーが訪れており、海の魅力を活かした移住定住対策が成果を上げていると思われる。 今回の視察は、耐震化の取り組み先進事例を調査に行ったものだが、町職員と住民の一体となった取り組みは津波耐震対策のみならず、町の活性化や行政施策全般についても参考になる点が多かった。今後機会があれば、執行部所管課や総務文教常任委員会、建設経済委員会の視察地として研修されたらどうかと感じ視察を終えた。 2日間にわたって懇切丁寧にご教示頂いた黒潮町の情報防災課の皆様には改めて感謝申し上げます。

次ページ写真は耐震工事中の現場です。

